



北の森^も林^り 国有林



今月のトピック

- ・北海道国有林における造林事業の省力化、低コスト化の取り組み

北斗市合併 10 周年記念・北海道新幹線開業記念
北海道森づくりフェスタ 2016
植樹祭 in ほくと

(写真：園児が育てたミズナラ苗木を
受けとる黒川局長)



国民の森林・国有林

北海道森林管理局

北海道国有林における造林事業の 省力化、低コスト化の取り組み

我が国の森林は、戦中戦後の大量伐採により一時期荒廃した時期はあったものの、戦後、盛んに造林を進めたこと等により、人工林が森林面積の約4割を占めるまでになりました。

現在、この人工林の多くは成熟期を迎えており、伐採して有効活用を図ることによる地域経済への貢献が求められています。

しかし、伐採後に再度森林を造成するための経費（造林経費）負担が大きく、民有林の一部には伐採そのものを手控える傾向や、伐採後に植林をしないまま放置されるところといった状況が見られます。

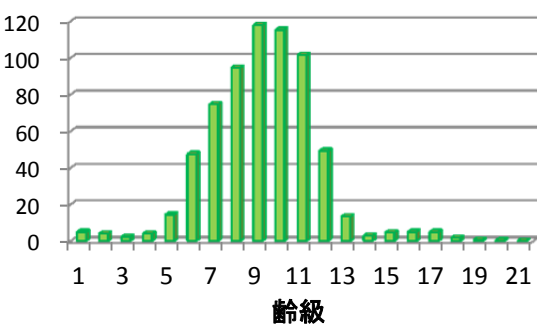
このような状況を打破するために、造林事業の省力化や低コスト化が今、強く求められています。苗木を植えて育てる作業は人力作業が中心で、ここ50年来あまり変わっていません。そこで、ここ数年来、

北海道森林管理局ではコンテナ苗の導入による植付作業の効率化、伐採から植付までの作業を一貫して実施することによる間接コスト縮減、大型機械を利用した地拵え作業と下刈り作業の回数削減、優良品種の導入、天然更新木の活用等を進めています。

また、これらの取り組みの成果は、民有林の造林事業にも活用していただけるよう、普及・定着に向けて取り組んでいく考えです。

（森林整備第一課）

千ha 北海道国有林の人工林年齢別面積



②伐採に伴う枝条を森林作業道脇に集積し、地拵えを省力化



①持続可能な林業経営、効率的な作業に向け現地踏査



④森林作業道脇に集積された末木枝条を破砕機でチップ化し、販売



③末木枝条量調査を実施し、地拵えの省力化を検証



⑥アースオーガ（穴掘機）を使用したコンテナ苗の夏期植栽



⑤伐採時に使用したの重機でササ等を除去し、地拵え時の重機運搬経費を削減



⑧初期成長の良いクリーンラーチを使用した無下刈りの試行



⑦植栽後の草本類繁茂抑制のためのチップ敷マルチングの現地報告会の実施



⑩大型機械地表処理による天然更新技術の検証



⑨一貫作業やコンテナ苗夏期植栽、大型機械地拵等に係る意見交換会を実施



⑫植生回復状況調査プロットを設定し、下刈り作業の省力化・低コスト化を検証。



⑪着果促進に向け環状剥離を実施



⑭コンテナ苗植栽事業結果報告会には、苗木生産者や造林事業者、多数が参加。



⑬コンテナ苗夏期植栽後、根系の発育を観察

列状間伐による低コストへの取組と普及への課題

地域課題の解決に向けた取組

十勝西部森林管理署

ここの十勝地域においても、人工林は成熟し本格的な利用期を迎えつつあります。

しかし、その一方では林業労働力の確保が課題になっていきます。

こうした中、十勝管内の森林管理(支)署と十勝総合振興局では、林政連絡会議を開催し、「低コストで安定的に木材を供給する」、「安全作業と省力化に資する」という観点から列状間伐の推進・普及に取り組んでいます。



十勝地域林政連絡会議

国有林では原則2回目間伐までは列状で実施することとしています。道有林では2回目間伐はほとんど定性で行われていました。

そこで、平成26年度には広尾町の国有林内において、高性能林業機械による列状間伐の作業システムと森林作業道作設に関する研修会を行ったところ、平成27年度には豊頃町の道有林において、2回目間伐を列状で行った現場で検討会が行われました。

道有林からは、列状間伐を実施した結果として、「かかり木の発生も少なく、予定よりも少ない日数で作業を終えた」「心配された風倒被害は見られなかった」などの報告があり、列状間伐が低コストや安全性の向上に資するも

であることが確認できました。

しかし一方で、「林家の中には、列状間伐は将来残すべき木まで伐ってしまうと懐疑的な意見が根強く、普及は容易ではない」という意見も出されました。



道有林の列状間伐検討会

このことに関しては、実際に十勝のある指導林家が所有するカラマツ人工林を見学させていただく機会がありました。

現地は優良大径材生産を目標にしている立派な人工林で、4年〜5年間隔

7〜8齢級まで間伐(定性)を実施し、収穫期には立木価格で1本1万円を目指し、きめ細かな管理が行われています。

こうした林家の方には列状間伐はなかなか理解していただけませんが、農業などの生業の合間に自分の山林を自家労力で手入れをするという経営形態と広大な森林を限られた予算の中で最良の効果が得られるよう管理する経営形態とは、コストや効率に対する考え方に隔たりがあるのは仕方のないことかもしれません。

それぞれの経営があり、そのニーズも違うことを認識しつつ、それぞれに必要な情報や技術を提供できるように私たちも研鑽を積んでいく必要があると感じています。



林家のカラマツ人工林

これまでの取り組みで、列状間伐のメリットなどについては道有林との間で認識を共有することができました。今後は再造林が増えていくことから、伐ったら植えて育てるという資源の循環利用をしっかりと進めていくためにも、引き続き低コスト化・高効率化に取り組んでいきたいと考えており、一貫作業や低密度植栽など新たな課題にも挑戦しているところで



駒ヶ岳・大沼森林ふれあい推進センターです。当センターで行っている仕事のうち、森林環境教育はこれからの約半年、月2〜3回のペースでメニューを行っており、大忙しの時期となります。ここでその一部を紹介します。

樹木博士認定会

樹木博士認定会は、樹木の名前や識別方法を学習することを契機に森林に親しんでもらうことを目的としたアウトドア活動プログラムのひとつです。

七飯町西大沼に常設コースのほか、北斗市茂辺地の自然体験の森にもコースがあり、年4回の実施で、四季折々の樹木や森林の変化を楽しみながら学習し、認定試験に取り組んでいます。

平成27年度は41名の参加があり、これまでに2,310名の樹木博士が誕生しています。

平成28年度は、6月5日、7月3日、8月7日に西大沼（七飯町）で、9月4日には茂辺地（北斗市）で実施を予定しています。都度の公募で実施していただきますので、ご興味のある方は是非参加してみてください。



平成27年度樹木博士認定会より
(第3回 認定書授与)

森林づくり塾

森林づくり塾は、森林の役割や森林づくりの基礎を学び、実際の森林作業を体験することにより、また、森林の中での楽しみ方を体験し、理解を深め、森林ボランティア作



平成27年度 森林づくり塾 2015より
(第6回 駒ヶ岳治山施設見学会)

業への意識の醸成と森林環境教育のリーダー的存在となり得る人材の育成を目指して、年度当初に定員30名を公募し、全6回の講座を実施しています。渡島総合振興局東部森林室の「森への誘い講座」とも連携を取り、共同開催や、相互参加型の講座を実施しています。

今年度は、植え付け、下刈、間伐などの作業体験や、製材工場見学、「山の日」制定記念登山などを実施するほか、「森への誘い講座」への参加メニューも2回あります。

植生観察会



平成27年度 植生観察会より
(第2回 吉野山)

七飯町の吉野山国有林で、水質や景観、野生動物の保全など地域の要請に配慮した「多様性のある森林への再生」の森づくり（植え付けや除間伐などの森林整備）を進めており、下層植生も変化を見せ始めています。

このため、植生観察会として季節毎の花や実を観察・調査し、データの蓄積も始めているところです。今年度は、春と秋の計2回、観察会を予定しています。

こちらも都度、参加者を募集していますので、ご興味のある方は是非参加してみてください。

こんにちは 森林官です!

日高南部森林管理署
御園西森林事務所
森林官
(御園西担当区)
古里 優太



御園西森林事務所は、新ひだか町の2級河川、静内川の支流である春別川流域・日高山脈西側中央部の約14,000ヘクタールを管轄しています。御園西森林事務所には私を含めて職員4名、非常勤職員1名が在籍しています。



イドンナップ岳

新ひだか町

町の観光スポットは、日本一と称される桜並木「二十間道路桜並木」です。約3,000本の桜が直線7キロメートルに渡って咲き誇ることで有名で、毎年5月上旬にはあでやかに咲き誇る日本一の桜並木をひと目見ようと全国各地から花見客が訪れます。基幹産業は酪農・漁業

(三石コンブ)が中心です。その他に競走馬の育成・生産も盛んで、多くの競走馬を輩出しています。森林事務所の近くにも牧場があり、格好の良いサラブレッドが見られます。

日高電源開発

静内川と新冠町の新冠川、日高町の沙流川、占冠村の双珠別川などの各河川には水力発電用のダムがあります。

それぞれのダムは山を貫通している水路トンネルでつながっていて、水量を調整して効率的な水力発電ができるようになっており、地域の重要な電力供給源となっています。



送水トンネル

工事は昭和30〜60年にかけて完成しましたが、

着工時はまだ道路もなく、奥地山岳地帯の調査・開発は難航を極めたそうです。当事務所の部内にもダムや水路トンネルがあり、工事の規模の大きさを垣間見ることが出来ます。

森林官の仕事

森林事務所の主な仕事は地況・林況調査で、今後どのように伐採・更新していくかの指標になります。

管内の人工林造成は昭和30年代から始まっており、その頃の造林地が現在、主伐・再造林の時期を迎えています。

先人達が長い時間をかけて育ててきた木々を伐採して有効活用し、造林し、後世に豊かな森林を残すことが重要な使命だと思っています。

また、この日高山脈には希少野生生物や日高山脈固有の植物などが見られますが、このような素晴らしい自然環境を守っていくことも、重要な使命です。

終わりに

普段の生活の中で森林の恩恵を感じることは少ないかもしれませんが、森林には木材資源としての価値の他に、水を貯える働き、山が崩れるのを防ぐ働きと、動植物の生息地としての役割があり、人間にとっても、そこに生息する動植物にとっても大切なものです。

森林を育てるのには長い時間がかかります。

また、生き物相手なので、画一的に同じ方法で施業をしても、同じように成長するとは限りません。そこに森林施業の難しさがあります。

日々、山を見る目を養って、良い山づくりの突破口となるべく研鑽していきたいと思えます。



ソラチコザクラ

各地からの便り

「各地からの便り」の詳細は

森もりスクエア

検索

今年の植樹祭は開催テーマ「広げよう北の大地に永久的な森」のもと、北斗市誕生10周年記念、北海道新幹線開業記念事業として行われ、地元北斗市や函館市などから約1,400名が参加し、北斗市のもみぢの木であるブナのほか、ミズナラの苗木2,000本を植樹しました。式典では、高橋知事による「森林の大切さを自



地元の小学生と渡島管内の緑の少年団による森づくり宣言

5月15日、北斗市きじひき高原において「北海道森づくりフェスタ2016 植樹祭inほくと」を開催しました。



催事会場での「箸づくり」

また、地元の小学生と渡島管内の緑の少年団による森づくり宣言が行われました。催事会場では、檜山森林管理署と駒ヶ岳・大沼森林ふれあい推進センターは、道南の山の写真展示と木工（箸づくり、万華鏡づくり）を出展し、多くの方に楽しんでいただきました。

覚し、森林資源を未来へ引き継いでいきたいと思います。と挨拶の後、北斗市、函館市の5つの幼稚園・保育園の園児が育てたミズナラ苗木が主催者に贈呈されました。



森の働きを紹介する「パネル展示」

【十勝西部森林管理署】5月22日、みどりセンター（帯広市）において、「みどりと花のフェスタ2016」を開催しました。このイベントは、地域のみなさんにみどりや花に親んでもらうことを目的に、帯広市・十勝総合振興局・十勝造園緑化建設業協議会・十勝西部森林管理署が協同で毎年開催しています。当日は、森の働きなどを紹介する「パネル展示」、樹木や植物の名前を当てる「みどりと花のクイズ」、親子で挑戦する「木工体験」など、様々なイベントを用意しました。



出来た作品は、どれも個性豊かな素敵な仕上がりで、みなさん大切に持ち帰っていかれました。この時期には珍しく真夏日となりましたが、約350名の皆さんに会場へ足を運んでいただきました。豊かな十勝の緑に触れあえる良い機会になったことと思います。



親子で仲良く作品づくり

当署が担当する「木工体験」コーナーには、木の種や枝、木材の切れ端を材料とした作品づくりに、たくさん親子が参加し、不慣れな道具の使用に戸惑いながらも、親子で相談したり、職員のアドバイスを受けながらアイデアあふれる作品を完成させていました。

**アイヌ文化の伝承に必要な
森林の再生を目指して**

【日高北部森林管理署】

5月11日、平取町アベツ
国有林において、広葉樹の
植樹を実施しました。

北海道森林管理局は、平
成25年に平取町・平取アイ
ヌ協会との間で、「21世紀・
アイヌ文化伝承の森再生計
画」推進のための協定を締
結し、アイヌ文化の伝承に
必要な森林資源の再生を
目指し、地域の関係者と連携
して「21世紀・アイヌ文化
伝承の森」プロジェクトに
取り組んでいます。

当日は、雨の降るあい
くの天気でしたが、平取町
やアイヌ協会、森林管理署
などから約40名が参加し、
昨年エゾシカ食害防止柵を
設置した箇所に、古来の森
林の再生に向けて、かつて
この地域に自生していたオ
ヒョウニシヤアオダモなど
900本を植樹しました。

日高北部森林管理署では、
植樹した広葉樹の経過観察
を行い、地域の皆さんと情
報を共有することとしてお
り、地域と一体となった森
づくりを進めて参ります。



雨の中での植樹風景

弟子屈名木ツアー2016(春)

【根釧西部森林管理署】

5月8日、今年で10周年
の節目を迎えた弟子屈町名
木ツアー2016(春)を
開催しました。



樹齢300年以上
のカツラ

今年は、33名の方に参加
いただき、国有林内のトド

マツやミズナラを含めた6
本の名木や屈斜路湖畔の樹
木、アカエゾマツの一斉林
などの観察を行いました。

春のツアーは毎年、その
年のエゾヤマザクラの満開
時期を予想して開催してお
り、今年は雪解けが早かっ
たこともあって、例年より
も早い日程となりましたが、
GW初日に降雪があるなど、
直前の冷涼な気候が原因で
まだ蕾もつけていない状況
に、参加者からは残念がる
声が聞かれました。

一方で、樹齢300年以上の
カツラやミズナラなどの大
木を目にすると感嘆の声が
上がり、「樹齢はどうやって
知るのがか」といった質問が
出るなど盛況のうちに終了
しました。



森林の成り立ちにつ
いて聞き入る参加者

北海道森林管理局は、広
大で大変豊かな森林を国民
共通の財産として、世代を
超えたさまざまなニーズに
応えられるよう、持続的な
管理経営に努めるとともに、
より豊かな姿で次の世代に
引き継ぐことを使命として
おります。

北海道森林管理局のホー
ムページ内では、「公売・入
札情報」「知床世界自然遺産」
「エゾシカ対策」「森もり」
スクエア」「イベント情報」
等の各サイト内において北
海道国有林の情報をお届け
しております。



**行事・
イベント情報**

7月2日(土曜日)
国有林モニター会議
(北海道森林管理局大会議室)



前回のモニター会議の様子

広報 「北の森林 国有林」6月号
発行 北海道森林管理局
編集 総務企画部 企画課
〒064-8537 札幌市中央区宮の森
3条7丁目70
I P 電話 050-3160-6300
電 話 011-622-5213
F A X 011-622-5194

<http://www.rinya.maff.go.jp/hokkaido/>